

## 公開シンポジウム

「地質地盤情報の共有化を目指して—安全安心で豊かな社会の構築に向けて—」の  
パネルディスカッションの構成と論点について

4月27日（木）15：45 から 17:35 までの 110 分のパネル討論

モデレーター：嘉門雅史（京都大学名誉教授）

パネリスト：飯尾 潤（政策研究大学院大学教授）

宇賀 克也（東京大学法学政治学研究科教授）

北田 奈緒子（地域地盤環境研究所）

小林 潔司（京都大学大学院工学研究 科教授）

15:45～15:50 嘉門から各パネラーの紹介とパネル討論の構成・目標の概要説明

15:50～16:20 各パネラーから話題提供（5 分間程度ずつ）

ご発表の順番はお名前の 50 音順に「飯尾」、「宇賀」、「北田」、「小林」でお願いします。

16:20～17:30 次の諸点に関する討論

（栗本、大西の両基調講演者には最前列から適宜参加いただく）

パネル討論での論点：

- （1）インフラ整備・維持管理の安全性を確保するための地質地盤情報の重要性を周知できているか
- （2）地質地盤情報の共有化による活用事例についての現状と地盤リスクの低減への質疑
- （3）地質地盤情報の共有化への法制度的な課題解消へ向けて
- （4）今後の地質地盤情報のあり方
- （5）地質地盤情報の共有化のための今後の施策

今後社会インフラの整備や維持管理は戦略的に選択と集中を図っていかねばなりません。

「安全安心を確保するためのインフラ整備への地盤情報の共有化」が必須であることを強調することが出来て、そのための効果的な施策の提案などへ展開しうるような議論が出来ますと幸いです。

（文責：嘉門）